



佐藤 高 清 議員

生涯学習を地域一体となつて行う方策はないか

問

生涯学習について聞く。

- (1) 組織や体制、現状や今後の展望はどうか。
 - (2) 文化財等の有効活用についてどう考えるか。
 - (3) 家庭、学校、地域、企業を巻き込むことで、大きな相乗効果を生み出すことができるのではないか。
- 地域振興の指針を聞く。

推進計画策定に努めたい

答 社会教育課長

- (1) 4月より社会教育課を生涯学習課に名称変更し、新たなスタートを切る。各種講座は年間を通じ、子ども対象23件、親子向け4件、一般向け47件を設けており、講座終了後に(参加

文化財の説明を行うボランティア(写真左)



芸能等の伝承を支援し、市民生活の中に生かしていくことが大切である。

弥富ふるさとガイドボランティア(右)の協力により、史跡、文化財等の案内に活躍してもらっている。

今後も学校教育との連携、学習ボランティア活動推進に努めていきたい。

21年3月に発足した市の史跡、文化財等を紹介するボランティア。森津の藤まつりなどのイベントや、市内外の団体へのガイドを行っている。

(3) 総合計画に記載されている生涯学習推進計画の策定に、今後努めていきたい。

者が)団体を立ち上げ、毎週活動している団体も数件ある。

地域の史跡、伝統芸能等を学習資源とし、活用できる環境づくりに努めたい。

今後はさまざまな事業を展開し、アンケートなどの実施により、多くの市民が参加できる体制づくりに努めていきたい。

(2) 文化財等の保護、伝統

文化、スポーツ等を実施する地域団体に地域づくり補助金を交付し、22年度は20件の交付団体があった。まちづくり出前講座については、21・22年で4回実

施している。

育児支援組織の活用状況は

問

ファミリー・サポート・センター(右)はどのように活用されたのか。

育児支援を望む人(以下「利用会員」と援助したい人(以下「協力会員」)が登録し、保育所送迎や一時預かり等を行う会員制組織。

対象は生後8カ月～小学6年生、報酬額は1時間700～900円。22年4月からスタートし、市はシルバ人材センターに委託している。

延べ69回利用された

答 児童課長

2月末時点で利用会員は126人、協力会員43人、両方会員が4人、利用は延べ69回である。

主な内容は送迎、一事項りで、時間は1時間以内の利用が多い。